

日本最大級の滝坂地すべり

平安時代末期、野沢盆地は大地震により地すべりが起き、銚子ノ口を塞いだため「牛海^{うしうみ}」という湖（湖面の海拔は165～170mと推定）であったとされています。その後も地すべりがあったと思われますが、文献上の記録はありません。

明治21年（1888年）、松坂南部が地すべり、耕地は被害を受けましたが、住宅は無事でした。

明治28年（1895年）8月8日、集落の周りに弓形をした地割れが見つかり、9月14日から1週間降り続いた雨で、18戸の住宅に被害が発生、このため上沼と引牧に11戸が移転しました。この時、新郷村では各戸5人役と縄500尋^{ひろ}の応援と旧山三郷の各村は義援金を募り、激励してくれました。

昭和24年（1949年）2月27日、激しい音とともに松坂一帯が明治期の2倍以上の広さで地すべりが起き、4月になっても止まらず、上沼に移転した家も含めて引牧に6戸、本村に6戸が移転しました。

このため村長を先頭に、県など関係機関に陳情をし、地すべり対策を強く要望しました。

9年後の昭和33年（1958年）、またしても引牧などに地すべりが発生し、集団で孫目に移転することを決めました。そのなかには2回、3回と移転を繰り返した家もあります。当時の道路は作業道であり、車もリヤカーもなく、ワイヤーロープを架け、屋材木などを運び、3年かけての移転となりました。

これを受け、昭和33年度、地すべり防止区域に指定され、県による対策が始まりました。しかし、地すべり活動は治まらず、活発化に伴い、平成8年度に国の直轄化による対策事業に変わりました。

地すべりの大きさは南北2.1km、東西1.3km、最大の厚さ約140m、推定移動土塊量は4,800万³mで日本最大級といわれています。地表移動量も年間22.8cmが平成30年度には1.2cmに減少していますが、阿賀川河道閉塞を防ぐため今後も工事が続行されます。



地すべりによってできた亀裂



今月の表紙

今回は、町の花でもあるおとめゆり。例年だと町内外からの観光客で賑わう「安座おとめゆり祭り」も今年は中止に…。今年もきれいに咲いていたので、紙面を通して一人でも多くの皆さんに届けられればと思います。

お詫びと訂正

6月号14ページの「こちら奥会津交番です！」で、奥川駐在所の田口諒さんは、巡査長ではなく巡査部長の誤りでした。お詫びして訂正します。

編集後記

大山祇神社御本社へカメラを片手に登ってきました。西会津で生まれ育った私ですが、御本社を参拝するのは実はこれが初めてでした。「三年続けてお詣りすれば」と言われているので、来年もカメラを片手に参拝に行きたいと思います。（秦）